

イ 本時のねらい

- ・即興的な表現のおもしろさを味わわせるとともに、唱歌とリズムのかかわりに気づかせ、即興的な表現が行えるようにする。
- ・和楽器の一つである和太鼓に触れさせることにより、我が国の伝統音楽への興味・関心を高めさせる。

ウ 展開

	学習活動		支援及び指導上の留意点	評価項目 (方法)
つ か む	①唱歌によるリズム打ち ・地打ちのリズムを体験する。 ア、地打ちのリズムを決めて打つ。 イ、ローテーションで演奏する。	8分	○太鼓を打つときに、右手はドやドン、左手はコやコンという唱歌を用いることを認識させる。 ○唱歌を用いる点が日本音楽の特徴にもなっていることを知らせておく。 ○楽譜はあくまでも記録のための二次的な活用法として用い、実際の活動場面では、唱歌で行わせる。 ○地打ちの演奏では、地打ち自体にリズムの変化がまったくないため、一定のテンポを保ちながらずっと演奏し続けることに困難を伴うことがあるので16拍で奏者を交代させ、ローテーションで積極的に演奏させる。 ○ただ単にリズムを打つのではなく、ある程度の具体的なイメージを持たせながらテンポなどを工夫させる。	
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 思 い を 太 鼓 で 表 現 し よ う 。 </div>			
た て る	②和太鼓による即興的リズム表現Ⅰ ・上打ちのリズムを作り、発表する。(2小節)	10分	○難しく考えず、自然にでてくるリズムでよいことを知らせる。	【感受・工夫】 唱歌とリズムの関わりに気づき、即興的な演奏を工夫している。(観察)
解 決 す る	③和太鼓による即興的リズム表現Ⅱ ・思いついた言葉をもとにして、上打ちのリズムを作る。	10分	○「今、考えている内容」を言葉にして、リズムを作る。思いつかない生徒は「自分を自己紹介」などで考えさせる。	
	自力解決の場 《予想される生徒の反応》 □イントネーションを意識して工夫している。		集団思考の場 《個に応じた手だて》 □イントネーションを意識している生徒数名に発表させる。	

		<p>■がむしゃらにリズムを打っている。</p> <p>■言葉も思いつかない。</p>		<p>■よさを確認し、自分の作品と比べさせる。</p> <p>■新たな見直しをさせる。</p> <p><個人的に支援する。></p>	
深める	<p>・地打ちに乗せて作ったリズムを打つ。</p>	1分5分	<p>○自分の言葉による想いをしっかりと表現できるように留意する。</p> <p>○初めはリズムがずれたりする場合もあるが、まずは「太鼓の音で気持ちを表すことが大切であること」を知らせ、心のエネルギーを音に託すという気持ちをもって演奏させるようにしたい。</p>		
まとめ	<p>④学習のまとめ</p> <p>・感想を発表する。</p>	7分	<p>○地域の祭り等の太鼓は次の世代へ引き継ぐ叫び、内容があることを知らせる。</p>		